

ケータイ・ライフスタイルの研究（４）
スマホを所有するシニアのスマホへの「関与」に影響する要因

- 飽戸 弘 （東京大学名誉教授）
- 栗原 一浩 （ドコモ・サポート株式会社）
- 水野一成（株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所）

1. 調査・研究概要

元気で知恵やノウハウを豊富に有している「アクティブシニア」が今後、多く存在。
⇒ これらシニア世代の生活をより豊かにするために
“必要とされること”、“ICTが貢献し得ること”を検討する。

昨年度の日本行動計量学会にて報告

シニアのICT利用に関するライフスタイル・アプローチ（1・2）

重要設問抜粋

注目すべき事項

ご報告対象

STEP 1（2回目）2017.1

先ほどご報告

ケータイ・ライフスタイルの研究（3）

STEP 2（2回目）2017.3

スマホ所有限定

n=2,938

スマホを所有したきっかけ

スマホの習得方法



ICT利活用

ライフスタイル

...

研究目的

過去の調査より、スマホを所有しているシニアの中でも、積極的に利用している人からあまり利用していない人まで存在することを確認。



何故そのように別れたのか、ライフスタイルやスマホ購入きっかけ、スマホを所有してからの状況をもとに解明する。

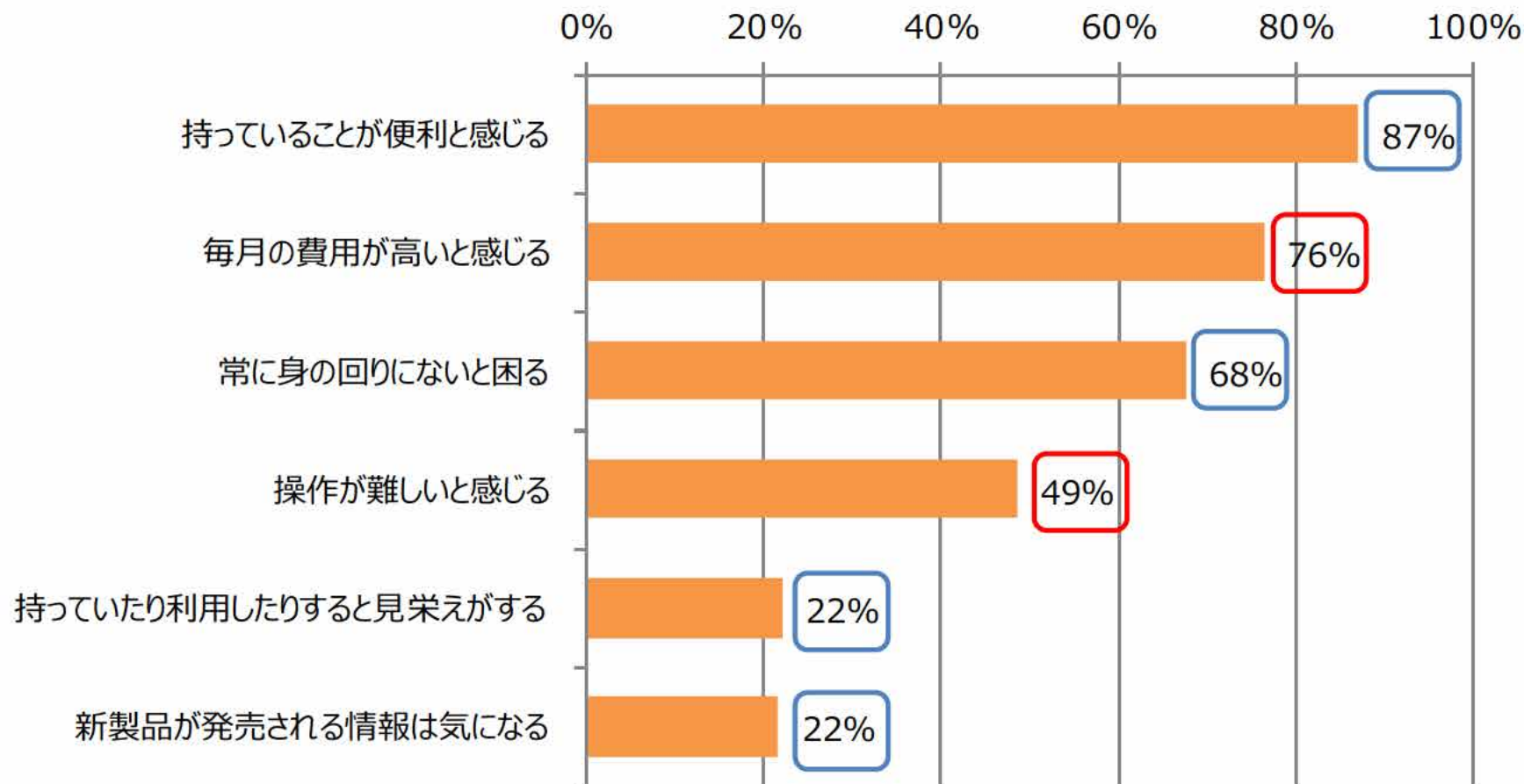
調査概要

- | | |
|-----------|-----------------------------|
| 1) 名称 | スマートフォンの利用に関する調査 |
| 2) 調査実施時期 | 2017年3月 |
| 3) 調査方法 | web調査 |
| 4) 調査対象者 | 全国 60歳～79歳の男女 |
| 5) 標本抽出方法 | QUOTA SAMPLING 性別・年齢・居住地で割付 |
| 6) サンプル数 | 2,938サンプル |

2. 調査結果

**因子分析・クラスタ分析
- スマホの関与 -**

便利と感じる人が9割弱、その一方、「高い」「操作が難しい」と回答も半数を超える。
このネガティブな回答は他調査における、スマホ未所有な人へ調査と同程度。



因子分析の結果、「利用重視」「外見重視」「ネガティブ」の3つの因子が抽出される。

・因子分析

3 因子累積寄与率：70.9%

	第一因子	第二因子	第三因子
	利用重視	外見重視	ネガティブ
常に身の回りにないと困る	.749	.238	.103
持っていることが便利と感じる	.653	.167	.040
持っていたり利用したりすると見栄えがする（カッコイイ）	.112	.669	.105
新製品が発売される情報は気になる	.300	.495	-.058
操作が難しいと感じる	-.102	.068	.734
毎月の費用が高いと感じる	.176	-.003	.385

(因子抽出法：主因子法、回転方法：バリマックス回転)

抽出された3つの因子（「利用重視」「外見重視」「ネガティブ」）をもとにクラスタ分析を行った結果、「積極・実用・不満・消極」クラスタに分けることができた。

		S1:積極派	S2:実用派	S3:不満派	S4:消極派
n		713	898	1,040	287
人数構成比		24.3%	30.6%	35.4%	9.8%
因子	利用重視	0.4	0.1	0.1	-1.7
	外見重視	1.0	-0.4	-0.3	-0.4
	ネガティブ	-0.2	-0.6	0.7	-0.2

「積極派」は利用頻度も高く、さまざまなサービスを利用している。
 「消極派」は利用頻度が少なく、メール中心の利用。また、ライフスタイルも
 セグメント間で異なる結果に。

		S1:積極派	S2:実用派	S3:不満派	S4:消極派	全体
属性	男女比	54 : 46	50 : 50	45 : 60	59 : 41	50 : 50
	60代 : 70代比	63 : 37	66 : 34	53 : 47	53 : 47	60 : 40
スマホの利用頻度	1日1回以上の利用	94%	90%	88%	65%	88%
ICTサービスの利用	応用サービス利用	80%	74%	69%	46%	71%
	基本サービス利用	18%	23%	29%	40%	26%
	サービス未利用	2%	2%	3%	14%	3%
ライフスタイル	経済的ゆとりがある	48%	48%	42%	38%	45%
	時間的ゆとりがある	78%	82%	77%	71%	78%
	有職率	58%	63%	68%	68%	64%

3. 調査結果

数量化理論第 Ⅱ 類を用いた分析

- スマホの関与クラスタが分かれた要因 -

分析の目的：スマホの関与 4つのクラスタに分かれた要因を分析する

外的基準

スマホの関与のクラスタ ①積極派 ②実用派 ③不満派 ④消極派

説明変数

大別	スケール	概要
ライフスタイル	イノベータ得点	イノベータスケールに関する4項目の回答結果を得点化
	即時-遅延志向	即時-遅延志向に関する2項目の回答結果を得点化
	経済的ゆとり	—
	日々の活動クラスタ	地域活動・カルチャースクールへの参加・人との交流 それぞれ2項目の回答結果より、因子を抽出、クラスタ化
スマホの利用	スマホの保有期間	保有状況の分布を元に尺度を作成
	所有きっかけ	スマホ所有者へのヒアリング、定性調査、 他の調査を元にオリジナル尺度を作成
	習得方法	
	今後への意欲	
	最初の1週間の利用	
属性	年代	—

外的基準と説明変数間の相関

外的基準と説明変数間で最も高い係数は0.22
説明変数間で最も高い係数は0.23

アイテム名		クラメールの連関係数
1	今後の意欲	0.22
2	最初の1週間の利用	0.20
3	イノベータ得点	0.18
4	きっかけ	0.17
5	スマホの保有期間	0.15
6	習得	0.15
7	即時 - 遅延志向	0.11
8	年代	0.07
9	日々の活動クラスタ	0.06
10	経済的ゆとり	0.04

説明変数間の相関

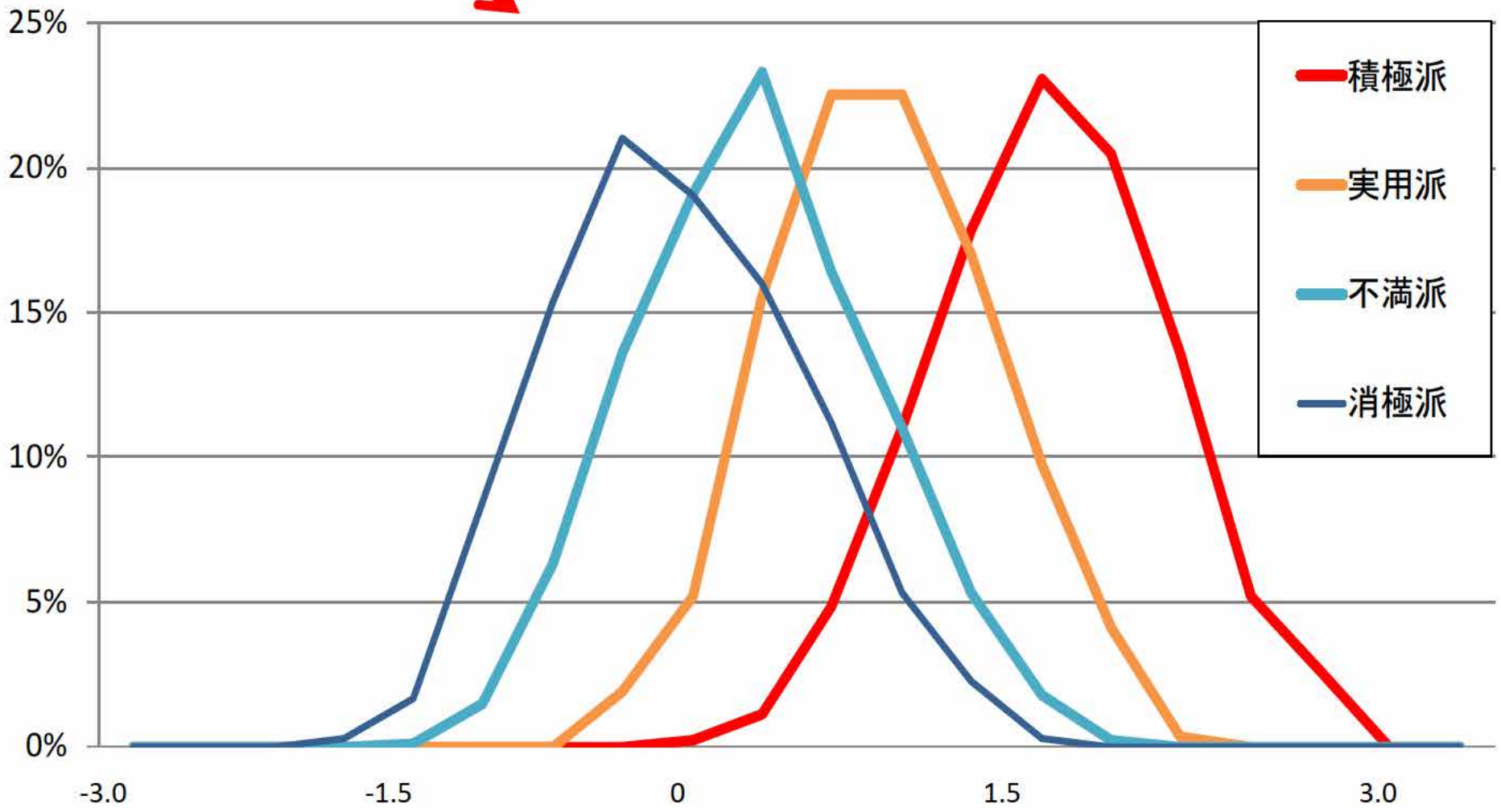
	最初の1週間	今後の意欲	イノベータ得点	保有期間	きっかけ	習得	日々の活動	即時遅延	年代	経済的ゆとり
最初の1週間		0.08	0.07	0.13	0.13	0.14	0.06	0.05	0.10	0.04
今後の意欲	0.08		0.13	0.11	0.13	0.13	0.08	0.05	0.04	0.03
イノベータ得点	0.07	0.13		0.06	0.11	0.04	0.12	0.23	0.05	0.10
保有期間	0.13	0.11	0.06		0.15	0.12	0.05	0.08	0.08	0.03
きっかけ	0.13	0.13	0.11	0.15		0.23	0.04	0.09	0.03	0.05
習得	0.14	0.13	0.04	0.12	0.23		0.09	0.07	0.08	0.06
日々の活動	0.06	0.08	0.12	0.05	0.04	0.09		0.05	0.12	0.13
即時遅延	0.05	0.05	0.23	0.08	0.09	0.07	0.05		0.04	0.09
年代	0.10	0.04	0.05	0.08	0.03	0.08	0.12	0.04		0.05
経済的ゆとり	0.04	0.03	0.10	0.03	0.05	0.06	0.13	0.09	0.05	

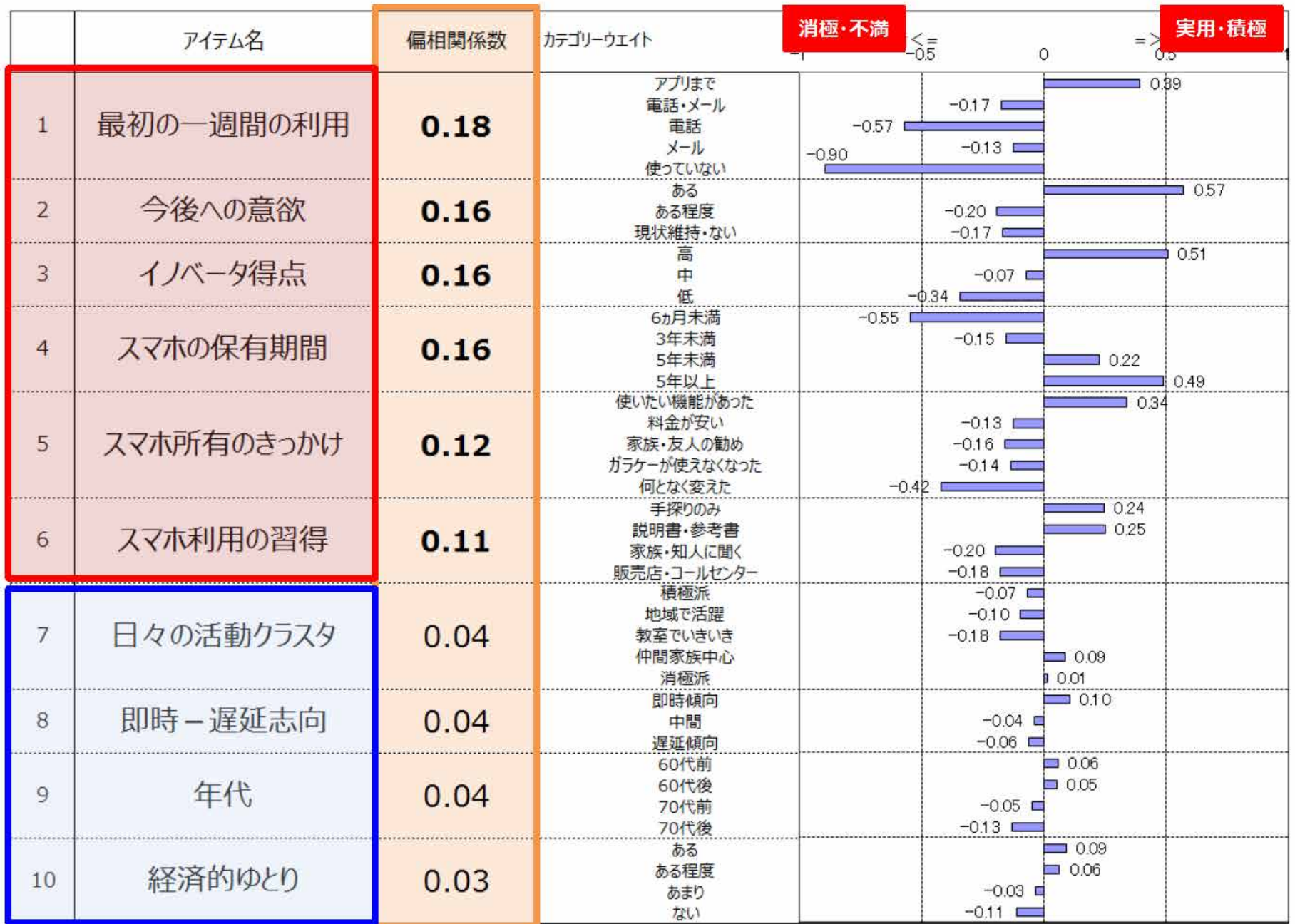
◆ サンプルスコア

	1軸	2軸	3軸
寄与率	59.0%	28.8%	12.2%

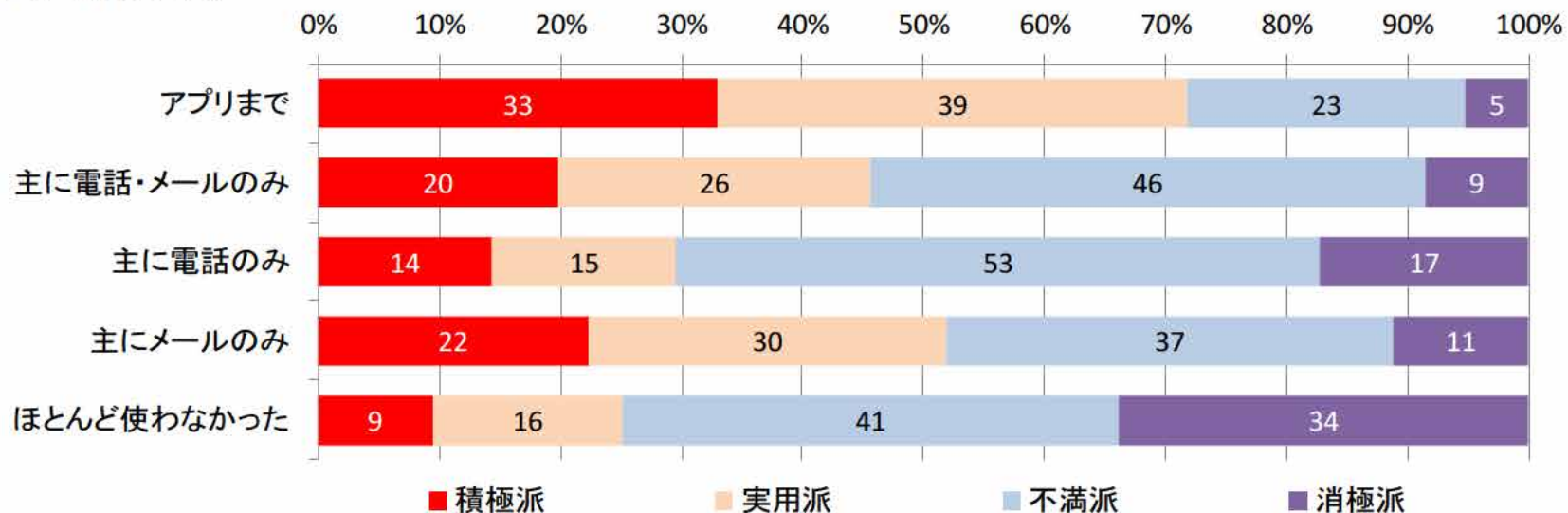
◆ カテゴリーの判別グラフ

判別的中率は53.5%、相関比0.21

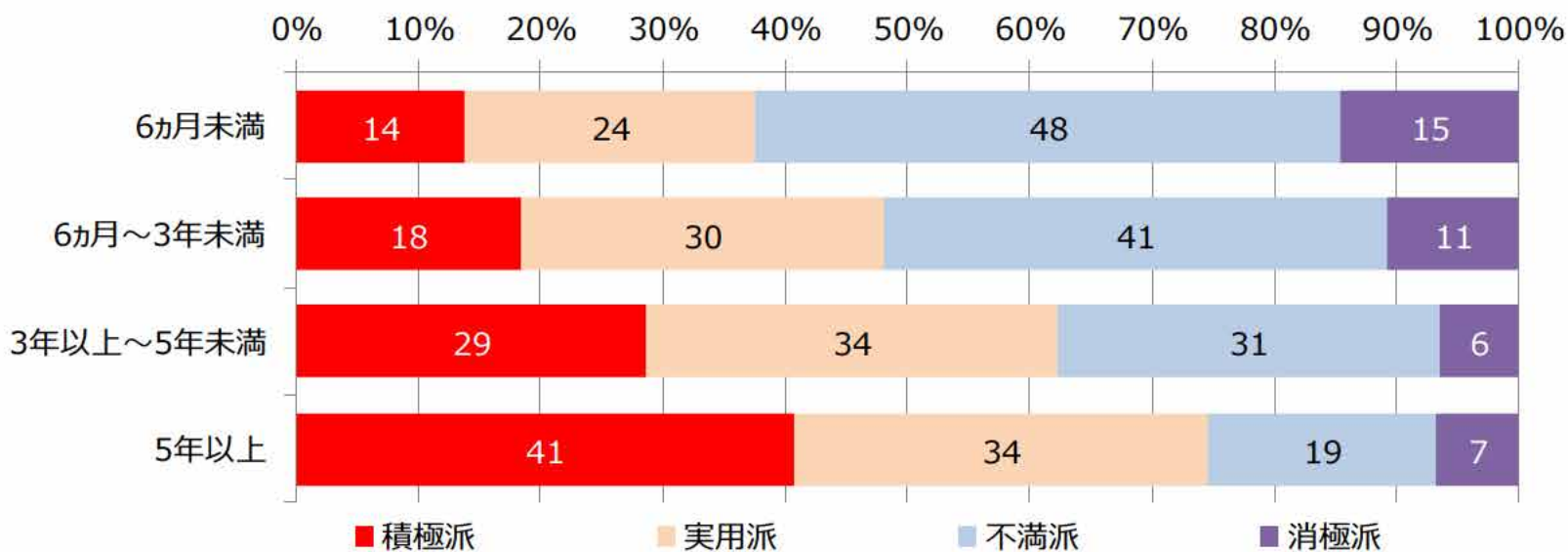




◆最初の1週間の利用



◆所有期間



シニアのスマホ所有者の中で、「積極」「実用」「不満」「消極」に分かれた要因は

調査結果

- ・最初の1週間の利用がアプリまで行くと積極・実用派の構成比が高い。
- ・スマホの所有、未所有の要因と異なり、「年代」「日々の活動」の影響は小さい。

今後の課題

- ・所有期間が短いほど、不満派・消極派の構成比が見られた。
⇒スマホ普及がさらに進むと予想される中、どのようにすればこの層を減らすことができるのか。